

第2回 兵庫水素社会推進構想改定検討会 議事要旨

1 日時

令和7年11月5日（水）15時00分～17時00分

2 場所

兵庫県私学会館

3 出席者

出席者名簿のとおり

4 議事

- (1) 第1回検討会での主な意見
- (2) 推進構想の構成（案）
- (3) 2050年の水素社会の姿（意見交換）
- (4) 水素将来需要量の推計とサプライチェーンの展望（意見交換）

5 発言要旨

- (1) 2050年の水素社会の姿
 - ・多くの県民に読んでもらい興味を持ってもらう工夫として、ストーリー仕立ては良い見せ方である。
 - ・水素を「特別なもの」ではなく、生活に自然に溶け込む存在として描くべき。
 - ・世代や職業など多様な登場人物にして、読み手が感情移入できるストーリーを構築してはどうか。
 - ・文章だけでなく、イラストなどを活用し、視覚的にイメージしやすい資料としてはどうか。
 - ・現在身近で利用されている水素利用の事例（原料製造時に水素を利用する化学製品、カイロなど）も紹介してはどうか。
 - ・兵庫県らしさを反映した要素（地域特性、産業構造）を盛り込むべき。
 - ・ノーベル賞関連のベンチャー企業や、万博で展示した事例（映像や展示物など）を紹介してはどうか。
 - ・天然水素や、超電導などの先端技術の記載を検討してはどうか。
 - ・若年層向けに、別途簡単な動画などのコンテンツを作成することも有効。
 - ・「水素は水などから作られ、エネルギーとして利用された後、再び水に戻る」という水素の資源循環や、「なぜ、太陽光発電だけでなく水素を利用するのか」といった水素のカーボンニュートラル上の必要性を一般の方がわかるように記載してもらいたい。
 - ・水素社会に向けて企業が取り組んでいることを、県民にもよく理解してもらえて、自ら行動できるような記載となればいい。

(2) 水素将来需要量の推計

- ・算定手法や考え方について異論はない。前提条件を明確にするなど公表方法を検討してもらいたい。
- ・港湾脱炭素化推進計画や他府県との推計方法の違い等を整理する必要がある。
- ・民生・産業部門のガス使用量を置き換えれば、e-メタンの需要量を算定することは可能。どれぐらい電化するかについて情報は少ないが、第七次エネルギー基本計画では熱需要はほぼ横ばい、電力はデータセンター需要でやや増加、石油・ガスの総量は大きく変化しない見込みであり、一定の前提を置いて算定するのが適切である。

(3) サプライチェーンの展望

- ・「サプライチェーン」という言葉を使うと「水素供給を繋げる」ことに意識が向きがちになる。地産地消も含むような表現とする方が良いのではないか。
- ・兵庫県の特徴を踏まえた記載とすべき。
- ・技術革新の見込みを反映してはどうか（e-メタンの例：2030年サバティエ、2040年SOECなど）。
- ・水電解装置が大勢を占めるであろうが、今開発中の光触媒やバイオ製造にも触れてはどうか。
- ・水素として運ぶだけではなく、電気として運んだ上で水素に変換し、熱などに利用できるのも水素の強みである。
- ・現在のLNG基地で可能となった第三者利用を、将来の水素基地でも行えるようになれば、水素の輸送・遠隔地への運搬などを容易にすることにつながり、用促進が進むのではないか。
- ・「何が何でも水素」ではなく、電気とのバランスを取りながら脱炭素を進める姿勢が大事。

(以 上)